

あいさつは心のバロメーター

「あいさつを行う意味を考えよう！」

今朝の二年C組の黒板に、このように大きく書かれています。あいさつと言っても、一対一で交わし合う「出会いのあいさつ」や、全員で声をそろえて行う「始業終業のあいさつ」があり、あいさつにもTPOがありますよね。しかし、あいさつの本質（大切な部分）は同じだと私は思います。

あいさつは「挨拶」と書きます。どちらも書けるようにする必要はありませんよ。でもね、漢字には「成り立ち」というものがあって、漢字は意味をもっている場合が多いのです。したがって、漢字を学ぶことは、意味を知ることになるので、学んでいて損はありません。「あいさつ」とひらがなで書くと、読みはわかるけど意味はわからないですよ。そこが漢字とひらがなの違うところですよ。

意味というと、何だか難しそうな気がしますよね。実は簡単なのです。「挨」も「拶」も共通のパーツが入っていますよね。そうです、「ヤ」（てへん||手偏）です。これが意味なのです。

「手が意味だということとは、どういうこと？」
だれもがそう思ったことでしょう。それが普通です。心配しないでください。これから説明します。

皆さんは、これまでに一度は転びそうになったことがあったでしょう。人は転びそうになったときどうしますか。顔面からそのまま転ぶ人はいませんよね。多くの人は必ず手を出すはずですよ。見えないものを触って確かめるときも、一番に出るのは手ですよ。ほしいものが目の前に合ったときに真っ先に出るのも手です。つまり、手は「心が向かって先」を表すのです。このように考えると、出会いのときは「私の心はあなたに向かっていますよ」ということを、授業のときには「私の心は勉強に向かっていますよ」ということを表します。

あいさつができない人がいるとしたら、相手がどうのこうのという前に、あいさつができない自分の心が萎（な）えていること、自分には何も向かうものがないことを自覚すべきでしょうね。要するに、自分の心のバロメーターがあいさつだと私は思います。皆さんのあいさつはどうか？

（六月二十五日 記）